

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年12月19日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人クオラ
事業所名	グループホームアリエ
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町船木2311番地8 (電話) 0996-52-1100
自己評価作成日	平成26年11月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年12月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が資格取得に向けて努力している。
- ・季節に応じて、なるべく全員参加ができる行事を計画している。
- ・年1回、家族会を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員が親しく交流できる場を設けている。
- ・アリエ便りを年4階発行し、取組の報告を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩町の主要幹線道路に面した法人の医療機関のある敷地に建てられているグループホームである。法人は他にも介護老人保健施設・訪問看護事業所・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所等を運営して地域の医療と高齢者福祉の一端を担っている。敷地内には職員住宅と保育園もあり、職員が働きやすい職場環境が整備されている。また、災害時の協力体制も合同訓練により築かれている。高齢化が進む地域の現状に認知症サポーター養成講座の講師や認知症フォーラムの開催に向けて協力するなど行政と共に活動も行っている。グループホームに入居していても社会とのつながりや馴染みの人たちとの関係が途切れないようにさつま町全体の健康教室(よろず塾)に毎月参加して顔なじみの友人知人たちとの交流を深め、利用者の楽しみにもなっている。

「食」についても法人の管理栄養士の助言をもらいながら1週間の中で献立が重ならないように、週に2日以上揚げ物は避けるなど栄養バランスのいい家庭的な食事の提供に努め、中でも、刺身・天ぷら・焼肉は利用者の一番人気であり、時には中庭で焼肉をしたり、握り寿司や刺身、行事にはアルコールも楽しんでもらうなど利用者の嗜好に応えられるように支援している。

外出も日常の散歩、買い物同行、ドライブに加え、よろず塾、初詣、手作り弁当持参での季節の花見、果物・山菜刈り、ホテル鑑賞、ピクニックなどできるだけホーム内に閉じこもらない生活の支援がなされている。

重度化・看取りにおいては本人・家族の思いや希望に添って主治医・看護師・家族・職員がチームとなって最大限の支援に取り組んでいる。

今後も更なるサービスの質の向上に向けた取り組みに意欲的なグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	アリエ独自の理念がある。また、目標という形で地域密着・地域貢献への理念を掲げている。全体会等や申し送り時などに唱和し、意識づけを行っている。	法人全体の理念のほかにグループホーム独自の理念も掲げている。理念は申し送り時や全体会で唱和して意識付を行っている。また、理念に基づいて毎年職員個々に目標も作成している。理念はホーム内・事務所内に掲示して職員のネームプレートの裏にも明記されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会、健康教室、グループ内行事（夏祭り・踊り慰問）に参加している。保育園の子供と気軽に挨拶したり、会話される。地域の方々から連絡をいただき、歌謡ショーなどに出かけている。	毎月、さつま町で開催されている健康教室（よろず塾）は利用者の楽しみでもあり、地域との交流の機会となっている。定期的なボランティアの訪問や保育園児との交流、法人全体の行事等での地域住民との交流も行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症サポーター講座のキャラバン名として、地域に向けて活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々、ご家族様から貴重な意見をいただき、参考にしている。その内容は全体会にて職員に報告している。地域の行事に招待していただいている。	民生児童委員、利用者、家族、行政等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。利用者及びホームの現況報告やヒヤリハット・アクシデント報告も定期的に行っており、職員間で検討した原因と対策も報告している。地域行事の情報等も聞くことができ利用者のサービス向上にも活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	委員会や役場に出向いた時に会話をし、サービスの質の内容について話をしている。特記事項があった場合はその都度報告している。また、運営推進会議も有効に活用している。	運営推進会議に出席してもらいホームの実情や取り組みを伝えている。また、さつま町と協働して健康教室(よるず塾)や認知症サポーター養成講座、認知症フォーラムなどにも取り組み協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回の勉強会を行ったり、全体会や申し送り時に身体拘束廃止に関する規定の唱和を行うなどして、身体拘束しないケアを意識して取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して委員会や全体会議で勉強会や検討会を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠することなく職員は利用者の状態を把握して連携を図り、出て行く利用者には職員がさりげなく声をかけるなどして見守り、安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	H26.3月に権利擁護の研修が実施された。敬う気持ちを持つことを日々心がけ、日常から申し合わせている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	頂いた資料などをファイルに綴じ、他職員が閲覧できるよう設置している。3月に権利擁護研修が行われた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っている。その上で質問があった際などはしっかりと答えられるようにしている。解約・改訂の際はその都度説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等についてはしっかり受け止め、フローチャートに沿って処理している。また、運営推進会議や家族会でも質疑応答を行い、定期面談を行い、個別に意見を収集している。	日常の面会時や電話連絡時、担当者会議、年1回の家族会等に家族からは意見・要望を聞き出すように努めている。出された意見・要望は必要に応じてユニットごとや全体会議で話し合っサービス向上や運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会を中心に意見を聞いている。また、常日頃会話で情報交換をしたり、電話・メールのやり取りを行うなどしている。その意見はグループミーティングで上司に報告している。	毎朝夕の申し送りやユニットごとのミーティング、全員参加の全体会議等で職員の意見・提案を話し合う機会となっている。利用者の処遇改善やサービス向上に向けた意見・提案も多く運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2階の人事考課表を作成し、職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。自己アピール表もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年内研修予定表をもとに、さまざまな研修や内部（グループ）の研修に参加できるように計画されている。介護福祉士取得に関しては事業所の補助金制度あり。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の協議会や主催する研修などを通じて意見交換をする機会を作っている。（いずみ川薩グループホーム協議会入会）（日本グループホーム協議会鹿児島県支部入会）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の担当者から情報収集を行っている。現場職員も立ち会い、入居前にご自宅への訪問をしたり、入居前の面談も行っている。顔見知りになり、安心頂けるよう努めている。また、入居時には館外科医を開いている。普段から傾聴に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅への訪問をしたり、入居前の面談を行っている。お会いできないときは電話などでご家族様、ご本人様のご意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況は変化が出てくることを契約時にご説明し、現在のサービス以外も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の仕方（味付けなど）を教えていただきながら一緒に作業したり、昔の遊びや千恵、歌や踊りなどを教えていただいている。家庭菜園も一緒に作っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への定期的な連絡をしている。病院受診を願ったり、昔のご様子などをお聞きして職員と今後の生活に反映できないか検討している。また、イベント行事、家族会へ参加連絡を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	よろづ塾で地元の方と再会し、お話できる場をご支援している。ご家族様にご相談し、お友達をアリエにお連れいただくなどしている。	よろづ塾での知人との交流の機会や入居前からの美容室の利用継続、お墓参りでの近隣との交流など本人の希望に沿って馴染みの人や場との関係が途切れないように家族の理解と協力をもらいながら支援している。また、冠婚葬祭の出席なども家族と話し合いながら本人の希望に添えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員レクリエーション等を行い、交流の機会を増やしている。トラブルが発生したら、原因や状況を把握し、職員が双方のお話を聞く。解消に努め、他ご利用者様に影響しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方にはお見舞したり、ご入所された方には面会に行くなどしている。また通りかかった時に話をするなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションからご本人様の希望や以降等を拾い上げるようにしている。家族からの希望、意見の聴取も行っている。記録は色を変えるなどして拾い上げやすくしている。	日常の関わりの中で会話などから本人の思いや希望を聞き出している。会話が困難な場合もこちらからの投げかけで選択してもらったり、表情や動きなどから本人本位に検討して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に本人様、ご家族様におたずねしている。また、ご入居後も日頃の会話から生活歴などをお伺いしている。ご入居前のケアマネからも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護介護記録、健康管理チェック表に目を通すなどして情報把握に努めている。また、重要事項は申し送りするなどして情報を共有している。(サイボウズ)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のご利用者様の思いや状態を踏まえたうえで、職員同士と情報交換をしたり、全体会で話し合っている。ご家族様のご面会時に伺ったり、訪問診療や外来受診等を利用して、医師、訪問看護師、歯科衛生士と連携している。3か月に1回ケア会議が定期的に行われている。	本人・家族の意向や希望を聞いて主治医・訪問看護師・職員の意見を反映させた個別の介護計画を作成している。必要に応じて排泄の工夫や本人の楽しみごととして運営推進会議やよろず塾への社会参加なども組み込んでいる利用者もいる。定期的に評価を行い、必要な修正を施すと共に状態の変化に対応した話し合いのもとで現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>情報を共有し、見直しに生かしている本人様の心理、自立支援を考え、話し合いを行っている。特記事項は念入りに個別記録の作成を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>よろづ塾の資料（計算ドリルや読み物）をいただいたり、PT・OTから教えていただいた運動、身体機能維持のためのアドバイスを実施している。クオラグループとしての強みを生かしている。訪問看護とも連携を取っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議を通してのふれあい。地域の方より食材をいただくなどしている。介護支援ボランティアの方にもお越しいただいている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の訪問診療を受診している。緊急時は医師の指示の下、病院受診を行っている。ご家族様から疑問がある場合には直接医師から説明をするなど対応している。</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。ほとんどの利用者が月2回の訪問診療を受診している。他科受診についても本人・家族の状況に応じてホームでも柔軟に対応している。毎週、訪問看護師による密な健康管理も行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師による週1回の体調チェックがありm相談をしている。病院受診やや艦隊などでは病院看護師にも相談する。身体状況の定期報告もしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>本人様の様子を直接見に行ったり、病院のソーシャルワーカーと連絡をとったり、話し合いをしたりしている。病状に合わせ必要時には他病院と連携が取れるよう心掛けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の話を、契約時より行っている。看取りの指針を活用している。疼痛や苦痛を少しでも和らげるため、家族にも依頼し面会などの精神面等で支えられるよう努めている。状況変化に応じて定期面談の機会を設けている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの方針は指針を作成して入居時に説明し、介護記録に内容を記録して同意を得ている。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでも本人・家族の思いや意向に沿った看取りの経験もあり、主治医・看護師・職員・家族がチームとなって取り組んでいる</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルを作成している。連絡網の訓練を実施。急変の場合に備え、先輩職員が職員へ始動している。緊急の場合を想定し、他施設・社宅入居者からの協力がいただける。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署員立ち会いのもと年2回の避難訓練を実施。連絡網の訓練（抜き打ち）で強化している。夜勤者は通報トレーニングをするなどして備えている。スプリンクラー設置済み。さつま町消防署にアリエの見取り図をお渡ししている。さつま町社会福祉施設等防災対策協議会に年1回参加し、さつま町の福祉施設と意見交換しあったり他施設の訓練の見学を行っている。</p>	<p>定期的に夜間体制を含めた避難訓練や消火訓練、通報訓練を行っている。年1回は法人全体での合同訓練が行なわれ、敷地内に社宅もあり緊急時対応などの連携や協力体制が築かれている。スプリンクラーも設置されて備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様のプライドやプライバシーを尊重し、一人ひとりを敬った声掛け、さりげない介助に努めている。日頃のケアの中では先輩職員が指導を行っている。	毎月接遇委員会を開催し、改善に向けた取り組みの充実を図っている。日常の業務でも利用者を否定しないことを心がけ、個々に応じた言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を自分で選べるようにタンスに名前を書いてわかりやすいように工夫をしている。食材や本を見ながら職員と一緒に献立を決めたり、買い物に行き好きなものを買うなどの支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のり済みになるべく合わせた対応をしている。ご本人様の訴えに沿い（表情や行動、態度から）支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出時や必要時に化粧をしていたでいる。職員に美容師がおり、よし本人様に希望がききやすくカットしている。なじみの職員の為、安心して様子。ご家族付き添いで美容室へ行く方もいらっしゃる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の一通りの流れを職員と一緒にいき、楽しみながら実施している。行事食やリクエストを聞いた特別な日も設けている。介助のからもできるだけ自力摂取できるように支援している。	法人の管理栄養士のアドバイスをもらいながら栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。刺身、天ぷら、焼肉は利用者の一番人気であり嗜好に応えられるように支援している。また、たこ焼き作りや菜園の野菜作りを手伝ってもらったり、手作り弁当持参で外出するなど「食」が楽しめるよう	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感のある、また、栄養のバランスを考慮して献立を考えている。水分量や食事量のチェックを実施。必要時に栄養士にアドバイスをもらっている。個別にトロミ食や刻み食、ミキサー食などに対応。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時には歯科検診を行う。歯磨きの声掛けを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録などで排せつパターンを把握する。夜間は安心して排せつができるよう環境整備を行い、必要な殻はポータブルトイレを使用している。介護計画書の内容に個別に記載している。	個々に排泄記録を作成し、排泄パターンを把握して職員のさりげない声かけと誘導でトイレでの排泄を支援している。入居後に改善された利用者も多い。ホーム内トイレ表示が利用者にわかりやすく表示されており、混乱のないように工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックしている。排便が見られないときは身体を動かしたり、食事内容の工夫、腹部マッサージを実施している。長く排便が見られないときは医師や訪問看護師に報告、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日の基本的な流れはあるが、ご希望をおたずねしながら入浴・清拭、足浴等していただけるようにしている。温泉の素や人形を使用して気持ちが安らぐようなひと時になるよう工夫している。	利用者の希望や体調などの身体状況に応じて回数や時間帯など柔軟に支援している。利用者に選んでもらって購入している入浴剤やゆず湯などで温泉気分や季節を感じてもらおうなど入浴が楽しめるように工夫している。重度化対応のためにリフトも設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性が上がるようレク等の参加を促している。夜間、不安になられて休まれない方がいたら飲み物をお出しするなどしてゆっくりと話せる環境づくりをし、安心してから休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書で理解をしている。医師のご指示通り服薬の支援を行っており、訪問看護師とも連携している。一目でわかるよう一覧表を設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯、片づけなどの役割づくりをしている。歌や踊りを楽しめる環境づくり。庭で気軽にお茶が楽しめるようにテーブルや椅子などを設置している。個別レク、リハの実施。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿ってドライブにお連れしたり、よろづ塾ホームの行事などで外出を促している。ごみ捨ての手伝い、散歩の実施、買い物にも出かけ、お好きなものを手に取っていただくようにしている。ご家族様にも協力を依頼し、外食、帰省などの楽しんでいただく機会を設けている。	日常的には散歩や買い物同行、菜園作りなどでホーム内に閉じこもらない生活を支援している。毎月のよろづ塾通いや初詣、手作り弁当持参の季節の花見、ピクニック、果物・山菜刈り、ホテル鑑賞などにも出かけて季節を感じながら外出を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人様自身が少額を所持している方もいる。訪問に来られた方よりお見舞いをいただいたり、お祝いを渡される。買い物に出かけ、支払いをされるなどして安心と自信につなげている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話のご希望時、職員が取り次いでお話ししている。ご家族様と職員が手紙のやり取りを行い、情報交換を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日掃除を行っている。季節感を味わえるようにお花を飾るなどしている。ホールには天窓があり、たくさんの自然光を取り入れられる。トイレは汚れたらすぐ清掃、消毒する、芳香剤を使用するなど匂い対策している。</p>	<p>共用空間は広く随所にソファが置かれ利用者はそれぞれにくつろぐことができるスペースが確保されている。ウッドデッキや庭にも長椅子やテーブルが置かれ、日光浴ができるように工夫されている。台所もオープンで見守りがしやすく、食事の準備の光景や匂いなどは生活感を感じさせてくれる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを共同空間以外に設置して、一人での空間も楽しめるようになっている。庭に椅子やテーブルを設置してお茶のみや雑談ができるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様とご家族様が話し合わせ、使い慣れたものや好みのもを持ち込んで生活されている。また、なじみの食器などを個別に使用している。畳の部屋もあり、布団の生活にも対応している。	利用者と家族が話し合い、使い慣れたベッドや寝具、テレビ、タンス、机と椅子、化粧品と鏡、飾り物、家族の写真などが持ち込まれ個別性のある居心地のいい居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は要所部分に手すりをつけ、ご利用様が歩行されやすいように環境整備している。また、各部屋に洗面所や押し入れも設置し、自立につながるよう支援している。トイレがわかるよう案内板を設置している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない